

1クリックでデプロイ用USBメモリに マスターイメージを作成 キitting作業の生産性を大幅に向上

独自資料やセミナーでマスターイメージ作成を懇切丁寧にサポート

PC管理担当者にとってキittingは、とにかく時間と人手がかかる頭の痛い作業である。キitting作業をスマートに終わらせるためには、きちんと自動化されたマスターを作成し、それをいかに短時間で多数のPCに展開できるのかが最大のポイントになる。

USBメモリのみでキitting作業ができるActiveImage Deploy USB

■キitting作業の課題

企業が新たにPCを導入した場合、OSのインストールや各種設定、アプリケーションのインストール、ネットワーク設定など、すぐに業務で使える状態にセットアップする必要がある。この作業を「キitting」という。キittingを行うPCが数台であれば、1台ずつ手作業で進めても特に問題にはならないが、数十台、数百台と台数が増えてくると、かかる時間と人手、コスト、エンジニアの作業負担増大などが大きな課題となる。たとえば、100台のPCを手作業でキittingする場合、OSやアプリケーション、ネットワークなどの設定作業を100回繰り返さなければならない。

■キitting作業の効率化

そこで、すべてのPCに共通な設定でセットアップしたマスターPCを1台用意し、このマスターPCからマスターイメージを作成して、残りの99台のPCにはマスターイメージをデプロイ(展開)するようにすれば、キittingにかかる時間を大幅に短縮できるわけだ。アクティブアイの「ActiveImage Deploy USB」は、USBメモリでマスターイメージの作成とデプロイが可能なキittingツールで、キitting作業を極限まで効率化できる製品だ。

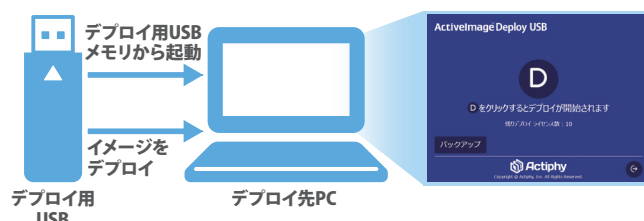
ActiveImage Deploy USBによる「デプロイ用USBメモリ」の作成—利用方法は次の通りだ。

まずは、ActiveImage Deploy USBをインストールした「作業用PC」にて、USBメモリを「デプロイ用USBメモリ」として作成する。作成ウィザードに従い操作するだけで簡単に作成できる。また、新版では、Windowsに標準でインストールされているWindows RE (Windows回復環境) からデプロイ用USBメモリの起動環境の作成が可能だ。従来とは異なり、作業用PCにWindows ADK / Windows PEをダウンロードしてインストールする必要はない。

■ワンクリックでマスターイメージ作成/デプロイ(展開)

デプロイするマスターイメージを作成し、USBメモリに取り込む。この「デプロイ用USBメモリ」を「マスターPC」に差し込んでUSB

メモリからPCを起動。表示される画面の「バックアップ」ボタンをクリックするだけでよい。デプロイ作業も極めてシンプルだ。マスターイメージを取り込んだ「デプロイ用USBメモリ」を「デプロイ先PC」に差し込んでUSBメモリからPCを起動。表示される画面で「D」ボタンをクリックするだけで、マスターイメージを「デプロイ先PC」に展開できる。

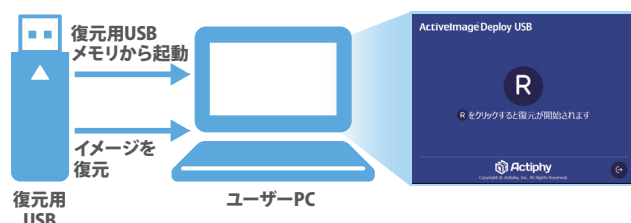


■高速で確実なデプロイ

デプロイは、SSDを搭載したPCであれば、10GBのマスターイメージをわずか約40秒という短時間でリストアできる。これはデプロイ用サーバーとマルチキャスト配信を使ったソリューションと比較して5倍も速い。1,200台のPCに対して40GBのマスターイメージによるデプロイを7日間で完了した事例もある。

■復元用USBメモリを添付して出荷可能

ActiveImage Deploy USB Plusライセンスを利用することで、エンドユーザー向けに復元用USBメモリを添付して出荷することも可能。PCに問題が発生したときに復元用USBメモリでPCを起動し、「R」ボタンをクリックすればPCをすぐに初期状態に戻すことができる。新版では復元用メディアとして光学メディア(DVD / Blu-ray)も利用可能になった。



マスターイメージの作成がキッティング効率化の鍵

さらにキッティング作業を効率化するには

ActiveImage Deploy USBを活用することで、キッティング作業全体の時間と人手、コスト、エンジニアの作業負担を大幅に削減できる。しかしキッティングをもっと効率化するためには、事前に準備が必要だ。単にマスターPCのイメージを展開すると、マスターPCと完全に同じPCが複数できあがる。これは、コンピューター名やWindowsのライセンス等も同一なので同時に使用すると競合する可能性がある。これを解決するためには、マイクロソフトが提供するシステム準備ツールであるSysprep(System Preparation Utility)を利用して、最適なマスターPCを用意することが重要だ。

Sysprepの自動応答ファイルの作成がポイント

Sysprepを使ったWindows OSを展開するためのシステム準備済みのマスターPCからマスターイメージを作成・展開し、PCを起動したとしても、通常の初期インストール時と同様にマイクロソフトのAIアシスタントであるCortana(コルタナ)が立ち上がり、言語やユーザー名、組織名などを手動で設定しなくてはならない。さらにWindows Updateを実行しなければPCはユーザーが使える状態にはならない。これには、30分程度の時間がかかる。

そこで、Sysprepの自動応答ファイルを作成してマスターPCに組み込むことで、初期設定を自動化できる。自動応答ファイルを含めて作成されたマスターイメージがリストアされたPCは、初回起動時に自動的にセットアップが実行されるので、手作業での初期設定が不要になる。これにより、マスターイメージのデプロイ後はコンピューター名やユーザー作成、ドメイン参加などのPC固有の設定だけで済む。また、PC固有の設定を行うスクリプトを作成すれば、さらに作業時間を短縮することができる。しかし、自動応答ファイルの記述は熟練のエンジニアでなければ簡単にはできない。

PCのキッティング作業の効率化セミナーを定期開催

Sysprepは、マイクロソフトのツールなので、ActiveImage Deploy USBのサポート対象外である。しかし、ActiveImage Deploy USBの提供を開始して以来、「マスターイメージをどのように作ればよいか」という問い合わせが非常に多く、マイクロソフトのWebサイトにもあまり情報がないという。そこでアクティブファイでは、2018年よりActiveImage Deploy USBを使ったキッティングの実習から自動応答ファイルを使用したSysprepの実行のデモなど、手順を丁寧に説明するセミナーを開催している。

PCのキッティング作業を効率化し、エンジニアの負担を軽減させるためには、いかに適切なマスターイメージを作成するかが重要なポイントになる。働き方改革の推進もあり、限られた作業時間、限られた人数で、いかに効率よくキッティングを行うかという課題を抱えているエンジニアは、ぜひアクティブファイのキッティングソリューションActiveImage Deploy USBについて問い合わせしてほしい。

なお、3回まで利用できるActiveImage Deploy USBの評価版を、アクティブファイのWebサイトから申し込むこともできる。

ActiveImage Deploy USB Plus
(SIベンダー / エンドユーザー向けライセンス)
キッティング作業後にPC納品
復元用USBメモリを添付

ライセンス内訳 (例: 100ライセンス購入の場合)

<SIベンダー側>	
・マスターイメージ作成:	無制限
・マスターイメージのデプロイ:	100回
・復元用メディア*1をPCに添付:	最大100本
<エンドユーザー側>	
・納品されたPC付属の復元用メディア*1からの復元:	無制限

*1: USBメモリ / SSD / HDD / 光学メディア (DVD / Blu-ray)

ActiveImage Deploy USB
(SIベンダー / キッティングセンター向けライセンス)
キッティング作業後にPC納品

ライセンス内訳 (例: 100ライセンス購入の場合)

<SIベンダー側>	
・マスターイメージ作成:	無制限
・マスターイメージのデプロイ:	100回

お問い合わせ先



株式会社 アクティブファイ

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町8番 NCO神田紺屋町

TEL: 03-5256-0877 FAX: 03-5256-0878 <https://www.actiphy.com> sales@actiphy.com